

令和4年度 学校経営方針

◆京都市の学校教育目標

『伝統と文化を受け継ぎ 次代と自らの未来を創造する子ども』

◆目指す子ども像 3つの姿

1. 広い視野と豊かな感性を持ち、よりよい人生や社会を創造できる。
2. 様々な学びを生かし、社会的・職業的自立を果たすことができる。
3. 多様な他者と共に生き、学び合い、人権文化の担い手となることができる。

◆全教職員で進める学校園づくり 5つの柱

1. 『いのち』子どもの命を守りきる
2. 『よりそい』多様な子どもを誰一人取り残さない教育を進める
3. 『つとめ』教職員の職責を自覚し、研鑽することで、教育の質を高める
4. 『ひろがり』
カリキュラムマネジメントの視点をもって社会に開かれた教育課程を実現する
5. 『つながり』校種間連携・接続により子どもを支える

◆学校教育において重視する視点

- 子どもの「主体性」と「社会性」の育成を目指し、「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を学校・幼稚園全体の教育活動の中で高める。

・小・中学校期における「自ら学ぶ力」

学ぶことに興味や関心を持ち、自己の進路や将来の生き方と関連付けながら、目標実現への見通しを持って粘り強く取り組むとともに、自己の学習活動を振り返り、よりよい方向に調整し、他者とも協働できる力。

・小・中学校期における「自ら律する力」

地域・社会との関わりの中で、他者への思いやりや寛容、人と人との絆の大切さを実感し他者と協調しつつ、自らの生活や人生、地域・社会をよりよくするために、時と場に応じた正しい判断ができる力

〈小・中・小中学校(義務教育学校)〉

1. 主体的・対話的で深い学びを重視した授業を通して、学びの質を高める
2. 日々の授業と家庭学習との連動を通して、自学自習の習慣化を図る
3. 自他を大切にし、「公共の精神」に基づく態度を育む

○京都市立明德小学校 学校教育目標

『人とのつながりの中で自ら学び、考え、
これからの社会を創りだす子ども』

○育成をめざす資質・能力

「人とつながり、学びを深めるための対話力」

○めざす子ども像

	校	訓	
『主体性』	『自律』	『つながり』	

- ・思いや考えを自ら伝え合う子ども
- ・相手の思いを大切にできる子ども
- ・仲間と共に、安心・安全な社会をつくる子ども

○令和4年度重点目標

- ・目を見てあいさつをしよう。
- ・話をよく聞き、考え、反応しよう。
- ・全ての命を大切にしよう。

○めざす教職員像(語り合い、支え合える教職員集団)

学校教育目標の具現化に向けて、職責を自覚し、自己研鑽に努め、教職員との連携を深めながら、粘り強く実践できる教職員集団

- ・子どもの最大の教育環境として子どもに背中を見せることができる教職員集団
- ・互いの存在を認め合い支えあえる教職員集団
- ・子どもの背景や実態を正しくとらえ的確に支援できる教職員集団
- ・主体的、対話的で深い学びの視点から授業改善や指導力の向上に努める教職員集団
- ・各自の特質を生かし、組織としての役割を認識して行動できる教職員集団
- ・常に自らの人権意識を問い直し、豊かに子どもと関わり合える教職員

○めざす学校像

地域と共に、地域と歩む教育の核となる学校

- ・人権文化に溢れ、一人ひとりの居場所がある学校
- ・子どもの手本となる言語環境にあふれた学校
- ・学習を通して地域とつながりあえる学校
- ・家庭や地域とともに高まり合おうとする学校
- ・「働き方改革」を通じて、教職員の人生も豊かにし、人間性を高めていける学校

1 「確かな学力」の育成に向けて

校内研究『仲間や自分、資料との対話から

自己をみつめる子どもの育成』～主体的・社会的な学びを通して～

○外国語科(外国語活動, 英語活動), 特別の教科道徳をベースに, 対話力を育成し, 学力向上を図る

- ・学校教育活動全般の中で, 資料や他者との対話を深められる言語能力・コミュニケーション能力を育成する。
- ・学年間交流, 校種間連携を通して, 対話力の育成を図る。
- ・主体的な児童会活動(委員会活動やたてわり活動)を充実させ, 児童の協働的な活動や学びを推進する。
- ・研究発表会で外部に本校の取組を発信し, 研究活動を見直し授業力向上を推進する。

○学習環境を整備, 統一し, 見通し持って意欲的に学習に取り組める環境の整備

- ・生徒指導, 人権教育, 総合育成支援教育と連携した「明德版学級環境づくりチェック表」を有効に活用し, 教室環境を含めた学習環境の構築を図る。

○基礎基本の充実

- ・統一した授業スタイル(明德スタンダード)を通して, すべての教科・領域で, 児童が見通しをもち, 意欲的に学習に取り組める授業づくりをめざす
- ・学力向上に向けて, 学校と家庭との連携を深め, 自主・自立の取組をめざした家庭学習を充実させる。
(「明德版家庭学習のすすめ」を配布し, 系統性を意識した家庭学習の取組を推進。)
- ・帯の時間の学習(国語タイム・算数タイム)の取組を整理し, 基礎基本の充実が図れるように, 各学年の取組の系統性を充実させる。
- ・朝の会でのスピーチの時間を設け, 話す聞く力の基礎を培う。

○ICT の有効な活用

- ・タブレットを日常的, 積極的, 効果的に活用した学習活動を探り, さらなる充実を図る。

○教科担任制の実施

- ・5, 6 年生での教科担任制, 4 年生での一部教科担任制を実施し, 授業の質の向上を図る。

○英語を通した対話する児童の育成

- ・英語によるコミュニケーションを通して, 伝える楽しさ, 伝わる喜びを体験させる。
- ・デジタル教科書の効果的な活用, CAN-DO リスト, 令和みやこスタンダードの実践, 検討。

○読書活動の充実

- ・学校司書による学校図書館の整備や充実と通常授業における積極的な図書館の活用をすすめる。
- ・学校運営協議会読書活動推進委員会やPTAのボランティアの方による読み聞かせの実施
- ・岩倉図書館との連携を深める。
- ・国語科の学習の中での並行読書や発展図書などによる読書活動の充実を図る

2 「豊かな心」の育成に向けて

人権教育の推進と道徳教育の充実

「明德小学校いじめ防止基本方針」の共通理解の徹底

すべての学校教育活動を関連させた人権教育の計画的な取組

道徳の学習の充実と6年間の系統性の充実発展・

○系統立てた道徳教育

- ・生活科、総合的な学習の時間との関連から作成された自作の地域教材を用い、道徳性を高める。
- ・道徳と他教科、領域との関連を明確にし、学習した価値の実践の充実を図る。
- ・道徳との関連を可視化した単元関連配列表を通して意図的効果的な指導を行う。
- ・道徳教育推進月間(6月、10月)には、家庭への授業の公開や HP、学校だより等で地域家庭との共通理解、連携を図る。

○社会の実情を考慮した横断的系統的な人権教育

- ・教職員自らの人権意識を常に問い直し、人権意識の高揚を図る。(人権ミニ研修・人権の地研修)
- ・教職員、児童共に、様々な社会の人権課題に対して、正しく知り、課題解決に向けた取組に主体的に関わろうとする意識を醸成する。
- ・人権教育の年間計画をもとに、社会に実情を考慮した横断的系統的な取組を充実させる。
- ・人権掲示板を通して、月ごとの人権テーマに応じたねらいや学習内容を全校で共有する。
- ・いじめは、絶対に許されない行為であることを理解させる。
- ・自尊感情を高め、互いの命、生き方、考え方を尊重しあえる子ども育成する。
- ・児童会活動やたてわり活動を通して、他者への思いやりを育み、人権意識の高揚につなげる。

○豊かな感性や情操を育む体験・交流活動

- ・「めいとく学習」での岩倉文化や歴史との出会いを大切にする。
- ・明德農園の取組やわきの山の取組を通して自然体験を実践する。(1, 2, 3, 5, 年生)
- ・岩倉に伝わる昔の道具の見学や体験を行う。(3年生)
- ・茶道体験や和文化部の活動を通して、日本の伝統文化にふれる。(6年生, 和文化部)
- ・京都市立北稜高等学校吹奏楽部の演奏鑑賞, 環境学習発表交流会(4年生)
- ・劇団衛星による演劇づくり, 演劇指導を通して表現する楽しさに気づく。(3年生)
- ・ふれあいサロン, 昔遊び体験活動で地域のお年寄りと交流を図る(1, 2, 4年生)

3 「健やかな体」の育成に向けて

健康に関する意識を高め、継続的な体力づくりを通して、体力の向上を図り、安全で安心な生活を推進する自己管理能力の育成

☆健康教育の推進

○体育科保健領域や健康診断時の保健ミニ指導など保健教育の系統立てた取組の確立

- ・学校教育全般の保健教育を見直し、取組を充実させる。
- ・保健に関するミニ指導の充実と教科・領域との連携を図る。

○児童会活動の充実および主体的活動を推進

- ・児童発信によるアンケートや点検、表彰などを通して児童の主体的な取組をすすめる。
- ・生活アンケート(年2回)の実施と考察、および児童会活動と連動させ全校へ発信する。

○食に関する指導の充実と推進

- ・栄養教諭との連携を深め、学級活動等における食に関わる学習を充実させる。
- ・児童会活動と連動させながら、栄養バランスや朝食の充実を図る取組を推進する。

○食物アレルギー・アナフィラキシーに対する正しい知識の習得と適切な対応

- ・全教職員で食物アレルギー児童の確認と共通理解、正しい知識の習得にむけて研修を行う。
- ・エピペン講習などを行い、非常時への迅速な対応につなぐ。

○飲酒・喫煙・薬物に関する指導を推進

- ・薬物乱用防止教育を開催するとともに、研修の機会を通して薬物に対する正しい認識を深める。
- ・教職員研修を行い、教職員が社会の実情を知り、認識を深める。

○性に関する指導の取組の充実

- ・自らの命や体を大切に育もうとする心情を養う。
- ・人権の視点を含め、保護者の理解を得ながら、性に関する指導を系統的に進める。
- ・LGBT など社会の実情を教職員が正しく理解するとともに、児童への学びの機会を大切にする。

☆体力向上の推進

○児童の運動能力の実態の把握と運動機会の充実

- ・児童会が主体となった運動遊びや集会活動を推進する。
- ・体力向上を目指した中間マラソンを冬期に計画的に実施する。
- ・ロング昼休みを定期的に設定し、運動機会の確保と遊び方の提供を行う。
- ・定期的、継続的な運動部活動の取組を通して、体力の向上および生涯スポーツにつながる活動の取組を推進する。

☆安全教育の推進

○「主体的に行動する態度」を育成する取組を推進し、危険から身を守る知識と判断力の育成

- ・全児童に通学時に防犯ブザーを所持させ、子ども 110 番の家を周知する。
- ・下鴨警察署による1年生「交通安全教室」5年生「自転車教室」を実施する。
- ・6年生に「救急救命学習」を実施する
- ・定期的にシェイクアウト訓練(10 回)、避難訓練(3 回)を実施する。
- ・様々な場面を想定しての実地訓練を開催し、全教職員が適切な対応がとれるようにして万一に備える。

4 「開かれた学校づくり」に向けて

学校の取組を積極的に発信するとともに、PTAや地域の取組へ参画し、学校との連携を図り、地域の核となる学校づくりを推進する。

○学校評価の分析と速やかな公表

- ・実態がより分かりやすいアンケート項目を精選し、実態把握に努める。
- ・アンケートの分析を通して、学校実態を捉え、発信し、保護者や地域と課題を共有化して連携を深める。

○ホームページや学校だよりの充実

- ・ホームページにより、日常の学校の様子を伝える機会を大切にする。
- ・学校だよりやホームページに学校の方針や取組を提示し、学校運営に理解と協力を求める。
- ・各種団体および地域住民への学校だよりの回覧を積極的に行い、学校の取組を周知する。

○学校運営協議会の充実

- ・年3回の理事会及び年1回の総会を計画的に運用する。
- ・各委員会の活動が充実できるよう、委員会所属の地域やPTA、学校教職員が話し合いの場を設定し、子どものよりよい成長を願った取組を模索する。

○保幼小連携の充実

- ・保幼小連絡会を定期的に開催し、校区や周辺の保育園や幼稚園との連携を密にする。
- ・学校が核となり、本校につながるの深い保育園や幼稚園同士の交流を図る。
- ・就学前の保護者を対象とした子育て講座を通して、就学に対する不安や悩みを和らげるようにする。

○洛北中学ブロック小中連携、小小連携、小高連携の充実

- ・6校(5小1中)のよさを生かした、9年間の連続性を考慮した学びと育ちの充実を図る。
- ・小中合同の教科主任会、教務主任会、教頭会、校長会の定期的な開催、校内研究への参加を通じて、小中教員の連携を図るとともに各々のよさを取り入れた指導力の向上を図る。
- ・北稜高校との連携をすすめ、学習活動を充実させる。

5 「働き方改革」に向けて

教職員一人一人が自らの働き方を見直し、公私ともに生き生きと活躍できる職場環境の醸成する

- ・学校全体で働き方を見直す必要性を共通理解し、時間外勤務時間削減に向けて教職員一人一人が時間を意識する。
- ・行事と学習活動とより密接に連動させて、取組期間を限定して計画的に取り組む。
- ・各文書をデータとして管理し、センターサーバの学年、分掌ごとのフォルダに保存することを徹底し、文書や教材作成の時間を効率化する。また、GIGA 端末やクラウドの活用スムーズな移行を図る
- ・教科担任制により、教材準備の時間の縮減、空き時間を利用等、事務的な処理の時間に充てられるようにする。